



以下の考察は、子供の将来を真剣に考えてのことであります。
週刊東洋経済[2019・4・13号]に、以下の記事が掲載されました。

- 「より重要なのは生まれる仕事だ」という見出しで、
- 「まず、技術によってどんな仕事が消えるかを理解しなければならない」とし、
- 「自動化できない仕事には理由がある」とし
- 「自動化のコストに見合わない仕事は残るだろう」としています。



そこで、これからの技術革新により

- ①「10年後に無くなる仕事」 ②「10年後も無くならない仕事」 ③「10年後に生まれる仕事」

について、考察してみようと思います。

Point⇒はじめに『技術の進歩で無くなってしまった職業』をご紹介します。

日本においても技術の発展により無くなってしまった職業があります。



- **裏回り、玉洗い**
今のパチンコ台は「自動管理システム」で補給されていますが、このシステムが開発されるまでパチンコ玉の補給は「島の裏」で、主に女性が手動で対応していました。



- **電話交換手**
電話サービスが始まったころには「電話交換手」という仕事もありましたが、直接通話が繋がるようになって無くなりました。(1984年に廃止)



- **駅の改札員**
駅の改札員は、この20年で自動改札が導入され見事に居なくなりました。今後は列車の自動運転が導入され、やがては高速道路から自動車の自動運転も導入されていき、やがて交通は「完全機械化」されていくことが予想されています。

Point⇒そこから予想される『10年後に無いかもしれない職業』をまとめてみました。

10年後に無いかもしれない職業

◎ 実店舗販売員(アマゾンGOでの実証)

「アマゾンGO」においては、アメリカで販売員不在のコンビニの実証実験がはじまっており、ロンドンに進出することも検討中です。
このストアは、コンビニ風の総合食料品店に消費者がレジを通ることなく出入りできるというコンセプトで作られています。
カメラを多用して客を追跡し、選んだ商品を識別したのち『Amazon Go アプリ』を通じて、直接請求するようになっており、レジ打ちする店員がいなくて話題になっています。
※ すでにファミマ・セブンも順次導入しております。



独り言 Column [コラム] hide ~ Episode 1

『10年後無くなる仕事、残る仕事、生まれる仕事』

先日、妻と一緒に「経営者セミナー」に行った際、基調講演で講師が発言したこと
で印象に残った事を皆さんに発信したいと思います。
最初から衝撃的ですが、
『10年後、今ある職種の半分以上が消えて無くなる』というものです。
日々変化し続ける私たちの生活は便利になっていきます。



5G導入により、世界50億人がスマホでつながり、映像でつながり、脳がすべて繋がるに等しいといえる状態になるといえます。

そのネットワーク社会でAIが与える衝撃(情報処理力)にますます依存し、すべての仕事が変質していくことは避けられません。

どれくらいの仕事が奪われ、どれくらいの仕事生まれるのか？
ここで、きちんと発表しておこうということで……



ダボス会議で、次のように発表されました。

7500万人分の仕事が無くなる!!

「2025年までにデータ入力や会計処理など、現在の仕事量の半分以上となり7500万人分の仕事の機会が奪われる」



ダボス会議とは『世界経済フォーラム』の総会のことです。
世界の100以上の国・地域から招待された経営者、国家元首、政治家、学者、ジャーナリスト、労働組合幹部、宗教指導者、非政府組織(NGO)代表ら2000~3000人が参加し、今後こんな世界になっていくだろうという仮説を立てて、そのなかで問題があればどうやったら解決できるだろうという解決方法について討議したりする会議です。
その総会が、毎年1月にスイス東部の「保養地ダボス」で開催されているために『ダボス会議』と呼ばれています。
そのダボス会議では

【今日生まれた子供が、将来働くときに現在存在しない仕事に就く確率】

それが「65%」だと発表したこともあったんだとか…。
確かに、今は「ユーチューバー」ってたくさんいますけど、
10~15年前は「ユーチューバー」という職業とかも無かったですもんね。

私自身の長男が、現在2歳になったばかりですので、
小学校入学が2026年度入学なので、高校卒業が2038年……。

ちなみに、私自身は2038年は59歳です(笑)
長男が就職するころ(2040年頃)には……
本当にそうになっているのだろうか?? 怖いけど気になります。

